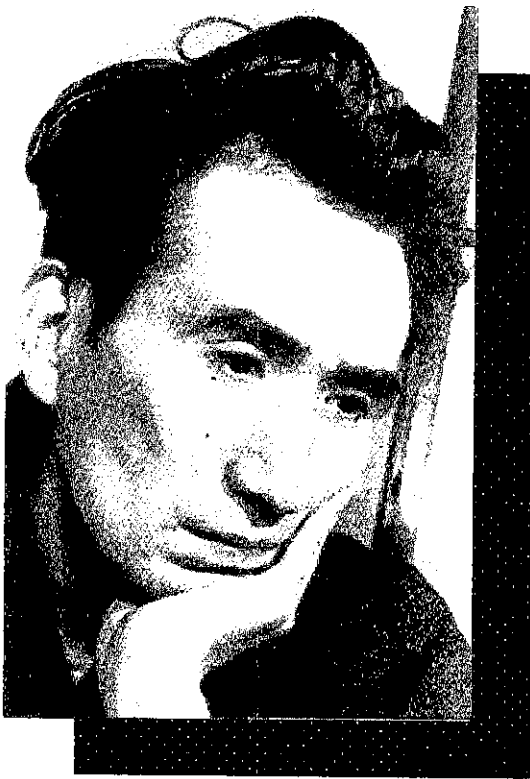


## 第12回「書評カフェ」を開催します！

■第12回「書評カフェ」で取り上げる本は、太宰治の『道化の華』です。

僕はなぜ小説を書くのだろう。困ったことを言いだしたものだ。仕方がない。思わせぶりみたいでいやではあるが、仮に一言こたえておこう。「復讐」 (太宰治『道化の華』より)



(Wikipedia より)

本書は、まさに「道化」的な小説である。

物語は、心中事件の生き残りとなった主人公(大庭葉蔵)の4日間の療養生活を、彼の心情を軸に描いたものである。これとって印象に残るストーリーではないのだが、読むほどに迷路にずるずると引き込まれていくような、不思議な感覚を感じる。

例えば、読み進めていくうちに、「僕」と称する人物が主人公なのか作者なのかわからなくなったり、「君」と語りかけられることで知らぬ間に読み手が物語への参入を強いられるなど、読み手の視点が次々と入れ替わっていく。また、心中の原因など肝心な部分については、奇妙な〈空白〉が挿入されているだけで〈真実〉はどこにも描かれていない。こうした、様々な仕掛けにより、読み手は作者の術中にはまることになるのである。まさに、小説全体が〈道化〉的な雰囲気を出している。

今回の書評カフェでは、この「道化の華」を読み、太宰治の世界に翻弄されながら〈空白〉の背景に潜む〈真実〉をあぶりだしていきたい。また、「小説」の既成概念を超えていこうとするこの作品の面白さについて、考えてみたい。(文責：近田真美子)

■書評カフェは、単なる扱う本の感想やその著書の作家論を述べ合うだけではありません。本を読んだ感想をもとに、そこから浮き上がってくるテーマを参加者どうしで探り当て、〈対話〉をとおして、そのテーマに対する自分自身の考えを遅くしていくことを目的としています(とはいえ、難しい会ではありません)。みなさま、お気軽にお越しください。

■第12回書評カフェ■ 評者：近田真美子

日時：2014年4月6日(日曜日) 15:00~17:00

場所：カフェ・ド・ギャルソン(仙台市青葉区国分町3-2-2 おいかわビル 2F)

取り扱う本：太宰治『道化の華』※『晩年』(新潮文庫)に収録されています。

申し込み・問い合わせ先：E-mail [konda@tfu-mail.tfu.ac.jp](mailto:konda@tfu-mail.tfu.ac.jp) (近田まで)

<http://tetsugaku.masa-mune.jp/index.html> (てつがくカフェ@せんだい HP)